



第八次石炭政策の最終年度の下期中央生産會議が十月十日に開かれ、三池炭鉱の下期生産量百七万五千トン（年間二百三十五万トン・前年度比十五万トン減）が提示されました。きびしい来年度からの政策実施を控えて、大幅な合理化計画はないものの、人員減に伴う集約化・職種区分の見直しなど、労働強化や保安につながる問題が懸念されています。

人員減無補充のまま、出炭は前期並み

中央生産会議

断し、再検討を迫られている。

○中・長期的な生産・人員計画は。
△きびしい石炭情勢のもとで、前期並みの生産は可能だが、中・長期の見通しは提示できない。
○貯炭の現状と見通しは。
△計画は達成したが、適正貯炭への先行きは見えない。低サルファ炭が求められ、三池炭はきびしい。
○社有地の利用・売却計画は。
△新たな計画はない。
○経営多角化、新分野への計画は。
△三井鉱山グループで石炭技術利用、関連事業の充実、遊休地の活用などを検討している。
○三井病院の現状と推移は。
△新館は四月一日オープンの予定

しいが企業努力を続けていく。
△今後の社宅計画は、
△上期中に計画を提示する予定が
△別会社の現状と今後の計画は
△三社の実績は、企業内の受注か
△今後の社宅計画は、
△上期中に計画を提示する予定が
△別会社の現状と今後の計画は
△三社の実績は、企業内の受注か

炭炭の秋季闘争は、退職手当を
中心にじん肺・せき損、職業病
(振動障害、難聴、熱中症、腰痛)
退職手当要求の基本的には何とい
ても基礎日額の引き上げです。基
礎日額の引き上げに終っています。

に要求書を提出していましたが、十月二十二日に中央闘争委員会を開いたあと直ちに第一回交渉を行い、早期の決着をめざします。

期末要求

実施されて以来、企業側の不誠意な態度によって退職手当では定年加給金の若干の増額に終始し、じゅうふく・せきぞんの入院準備金と栄養に交渉を開始、中旬の解決を

めざします。

期末手当の要求は従来からの要求額五十五万円ですが、よつや、四十万円を若干上回ったにすぎず、

課題であり、石炭情勢がいかにきびしくとも炭鉱労働者の生活安定のために、全力をあげて要求額を獲得しなければなりません。

期末要求提出へ

他産業平均には二十万円程度及び
ません。格差是正と八次策以前の

ない九月二十七日、風速五十メートル前後の大型台風十九号が吹き荒れて大きな被害をもたらしました。

自然の猛威をあらためて実感するとともに、各人が復旧に努力していますが、材料や工事の関係で限界があります。とくに、鋳業所の社宅は古い建物が多く被害も多かっただけに、生活環境維持のために早急な復旧がのぞまれます。

三池労組では、被害の実態を集約した上で、緊急に会社に対して

その内容は、①社宅居住者の生活環境維持に影響する被災箇所の修理・補修に万全を期し、早急に復旧すること。②空戸社宅の管理について、社宅入居者に悪影響を及ぼさぬよう早急に対策を講じること。③台風によって出勤できなかった者については休業補償を行うこと。④社宅転居希望者には本人の意向を尊重すること。⑤退職者で社宅入居中の者については、営繕を行い、公的住宅入居希望者には努力すること。⑥その他。

災害復旧の要求書を提出しました。

△三月中に工事が終了するので、来期に移転の予定である。

その他、ワールドコールテクセンター設立、アジアランド、イブランド、コンプラ計画などについて質しました。

○三池鋤への総理・人事の集約の計画は。

九月二十七日、この地方を襲った大型の十九号台風によって被災された皆様に、心からお見舞申しあげ早い復旧を願っています。

ら企業外からの受注に上向き、
ほぼ目的を達成している。

○鉋骨補償、海底陥没埋立て、硬
海洋投棄の現状と推移は、

△前年度、前期と変化していない。
○水道一元化の現状と推移は、

△自治体の取り組みの段階で、推

機関構成	
執行部	
組合長 中原 一 (非常任)	2分会◎大野 源六 (甲方仕繰)
書記長 田口 芳博 (常任)	織田 喬企 (乙方仕繰)
労働部長 森 卓 (非常任)	藤田 嘉広 (丙方仕繰)
組織部長 芳川 勝 (非常任)	太田 千歳 (常一電気)
会計監査 国中 國洋 (非常任)	4分会◎田中 精一 (坑外機械)
会計監査 松岡 大喜 (非常任)	花島 敬三 (坑外資材)
議 長 団	伊藤 猛 (坑外資材)
副議長 藤田 嘉広 (2分会)	5分会◎緒方 正人 (坑外特務)
委員	6分会◎市成 義弘 (鉄道課)
1分会◎津波古文男 (常一仕繰)	(◎印は職場分会長)
宮川 澄雄 (常仕繰)	保安担当者
	保安委員 黒田勝儀三池鉦
	安全推進員 大野源六三池鉦
	保安委員 森 卓本所
	安全衛生委員 猿渡章博港務所

と き 11月9日(土)
13時30分開場、14時00分開会
ところ 大牟田労働福祉会館

	1991年下期計画	実 績	増 減	1991年下期計画
出 炭	1,175,000	1,175,000	238	1,175,000
送 炭	1,070,000	1,011,761	- 58,239	1,295,000
期首貯炭	1,612,128	1,612,128		1,720,429
期末貯炭	1,657,128	1,720,429	63,301	1,538,429

		1991年9月末	增 減	3月末
三 池 鉞	採 炭	96	- 7	89
	掘 進	213	- 4	209
	坑 内	1,223	- 49	1,174
	坑 外	55	- 3	52
	計	1,278	- 52	1,226
本 所	坑 外	140	- 1	139
	計	140	- 1	139
鉞 業 所	採 炭	96	- 7	89
	掘 進	213	- 4	209
	坑 内	1,223	- 49	1,174
	坑 外	195	- 4	191
	計	1,418	- 53	1,365

生產會議資料

下期末で二千人を割る

右の資料では下請け関連の数を示していませんが、上期末で百七十五人（平均）、下期末では百八十二人で若干の増となる見込み。

金従業員数では一級職、一般職、下請けを含めて下期末では二千人を割ることは確実です。なお、三井病院は百三十人台で若干の減が見込まれています。